

すききらいしてる子だあれだ

知名町立田皆小学校 三年 黒木 みお

ある小学校に、かなちゃんという女の子がいました。かなちゃんは、きゆう食の時間が大きらいです。なぜならきらいな野さいがたくさんでるからです。先生から、

「かなちゃん、一口でもいいからしいたけ食べてごらん。とつてもおいしいよ。」

と言われても、友だちのまほちゃんからも

「かなちゃんがんばって。」

とはげまされても、どうしてもかなちゃんは野さいを食べることができません。

ある日、かなちゃんがいつものように野さいをさらのすみにのこそうとしてしていると、野さいたちが一せいにこり始めました。

「みてよ、ぼくのこの茶色くりっぱなかさ。とつてもおいしいんだよ。どうして食べてくれないんだ。」

しいたけくんが言いました。

「わたしだって、このきれいなオレンジ色の体。まるでお日さまがしむ時のような、きれいな色なのにどうして食べてくれないの。かなちゃんなんか大きらいだ。」

にんじんちゃんも言いました。そしてあき地のほうへ走って行ってしまいました。これを聞いたかなちゃんは、とてもかなしい気もちになり、なんだかむねがちくちくいたみはじめます。

「わたしのこと大きらいだって。」

右の目からなみだがひとつぶひざにおちました。そして自分が野さいたちに大きらいと言っていたことを思い出しました。

「野さいさんたち、毎日毎日わたしから大きらいって言われてかなしかつたんだろうな。大へん、野さいさんたちにあやまってゆるしてもらわなくっちゃ。」

と思い、野さいたちの走っていったあき地へ全力でかけていきました。

「野さいさんたちどこに行つたんだらう。」

かなちゃんはいつしようにけんめいさがしました。ふと立ちどまって耳をすますと、なにかが聞こえてきます。

しずかにしずかにそうつとちかづいていくと野さいたちが話し合いをしているさい中でした。かなちゃんはだまって草のかけにかくれて聞いています。

「食べたことないのにねばねばして気もちわるいなんてかなちゃんは言うんだ。」

とオクラくんが言いました。

「ぼくのこのあざやかなむらさき色。てんぷらにした

らとてもおいしいのに、かなちゃんはぼくのおいしさがわからないんだ。」

となすくんが言いました。

「それはひどいや。もう人間に食べられるのはいやだ。」

地球からいなくなつてやる。」

とピーマンくんが言いました。みんなも、

「さんせい、さんせい。」

と次々と言いました。

それを聞いていたかなちゃんは、びっくり。

「野さいたちがいなくなつたらどうしよう。野さいたちからえいようをたくさんもらっているのに、みんなが病気になるつてしまう。」

と考えこみました。

かなちゃんは野さいたちの前にとび出しこう言いました。

「ごめんなさい。もうのこさないで、帰ってきてください。」

でも、あやまつても野さいたちはゆるしてくれません。

「だつたらしょうこをみせてよ。」

と言って、かなちゃんの大きらいなしいたけ、にんじん、ピーマン、オクラなどがおさらに山もりでできま

した。かなちゃんは思わず

「ピー。」

とひめいをあげました。でも野さいたちが帰つてこないとみんな病気になるつてしまう。

「だから大きらいな野さいだけがまんして食べなくつちゃ。」

かなちゃんは思いました。

「おつ、おいしい。今までどうして食べられなかったんだろう。」

あつというまにおさらは空っぽになりました。野さいたちは大よろこび。

「わーい。かなちゃんがやっと食べてくれた。しかもおいしいだつて。」

野さいたちもかなちゃんもうれしくなりました。

次の日のきゆう食の時間です。そこには、大きな口をあけ、にこにこして野さいを食べているかなちゃん

のすがたが見えました。先生も友だちもびっくり。

「どうして急に食べられるようになったの。」

と聞かれました。だけど野さいたちとかなちゃんだけのひみつなので、

「ふふふ。」

とわらいました。

それからかなちゃんは、毎日きゆう食の時間が大す

きになりました。